

第2期 2006年～2015年

「開かれた博物館」への模索



ふるさと横浜探検「山中城」にて(2005年)

前副館長
井上攻

2006年度から指定管理者としての博物館の運用が始まります。またこの年には行政改革推進法が施行され、より効率的で市民へ開かれた組織運営が社会的に求められる時代となり

ます。さらに、長引く不況に加え、2011年には東日本大震災が起これ、社会の不安感が高まる中、文化や歴史・伝統の持つ力や効用が試されることにもなりました。

この間、時代の求めに応じ、当館は前向きに事業のあり方を模索していきます。企画展では開館を担った学芸員が常設展示のテーマを深化させる企画を実施する(古代の役所、吉田新田等)一方、2000年代前半入社学芸員を中心に実験的な企画が出現します。市民との古文書学習の成果を活かした(協働型)近世の展示や、アクティブラーニングを意図した参加型の考古展示などが印象に残ります。また市民にとって利便性の高い財団諸施設の連携では、横浜3万年の通史を扱った「横浜のあゆみ」展が開かれ、諸施設一体化の方向性が示されていきます。

地域住民との協働では、2009年の開港150年を契機に始まった現代アート展が画期となりました。従来、当館は地域から「敷居が高い」とされてきましたが、多くの地域住民の参加・支援を得たこの企画により、「開かれた博物館」の端緒が見えてきました。この時に築かれた地域(住民)との人的関係や決まり事は、現在の「みなきたマルシェ」などにつながる地域連携活動の原型となっていきます。またこの年には横浜F・マリノスとの連携事業も始まり、以後民間企業も含む多様な連携の形が模索されていきます。

博物館を支えるボランティア活動では、従来の遺跡解説とは別に活動支援のボランティアが立ち上がり(2010年)、徐々に活動の幅を広げていきます。その後2015年に設立された当館の応援団体「横浜歴博もりあげ隊」のメンバーには、ここでの活動を経験された方が多くいました。

博物館の中に閉じこもらず、外へ出向くアウトリーチもこの期以降に重視されました。中でもエドゥケーター(学校連携担当)と学芸員が、学校資料室の再生・創出に取り組んだ「博物館デビュー」支援事業(文化庁助成事業)は、外部への発信や外部資金の活用を強く意識し、行政や財団内部に認識させる事業となりました。この事業はその後現在まで続く当財団の事業戦略に影響を与えることとなります。



横浜縄文土器づくりの会
メンバーと工房で薪割(2005年)

展覧会



4/8~6/25



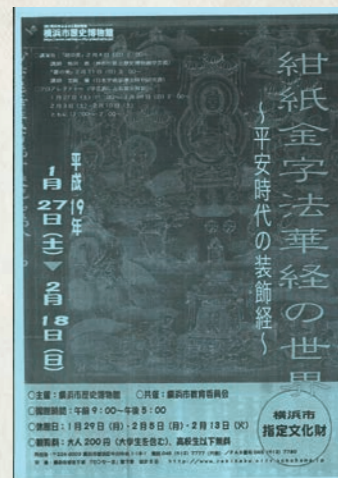
7/15~9/10



10/7~11/26



12/9~1/14



1/27~2/18



3/3~4/15

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと

〈大塚・歳勝土遺跡 国指定20周年・公園開園10周年〉



イベントチラシ



ジャンボ土器を焼く(体験広場)



企画展「弥生の人びとの眠る場所」遺跡めぐり



企画展「ちよっと昔を探してみよう」会期中のミュージアムショップ



第10回エントランスホールコンサート



特別展「横浜の礎・吉田新田いまむかし」中田宏横浜市長来館



企画展「ちよっと昔を探してみよう」関連事業「集合!スバル360」



博物館感謝デー むかしののりもの(エントランスホール)

ミニ展示

7月11日~17日 『後三年合戦絵詞』上・中巻
8月15日~20日 『後三年合戦絵詞』下巻・『合戦絵巻』
9月12日~18日 『年中行事風俗絵巻』・『四季風俗図巻』

1月16日~21日 『六波羅合戦絵巻』・保元物語平治物語版本
2月20日~25日 翡翠大珠・緑区出土縄文土器
3月20日~25日 武州橋樹郡鶴見村文書

展覧会



4/28~6/24



7/14~9/2



9/15~10/8



10/20~11/25



12/8~1/14



1/26~3/16

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



竪穴住居の茅葺き修繕(大塚遺跡)



企画展「昭和30-40年代の旅」展示風景



体験学習「そめもの(万祝染)」(工房)
講師：鈴木幸祐氏



回想法の取組(体験学習室)



ふるさと横浜探検「よこはま事始め 山手地区」
講師：半澤正時氏



企画展「昭和30-40年代の旅」関連事業
「博物館にSLがやってくる」



竪穴住居に泊まろう



企画展「青葉の村々と矢倉沢住還」フロアレクチャー

ミニ展示

7月16日~22日 「上杉憲顕奉書」「大道寺政繁書状」「北条時宗下知状」「別当弘尊充行状」
8月21日~26日 「長尾忠景書状」「矢野憲信書状」「永盛書状」「久甫淳長置文」
9月17日~24日 飛鳥京跡・藤原宮跡・平城京跡・多賀城跡出土武蔵国関係木簡

1月14日~20日 武蔵国国分寺文字瓦
2月11日~17日 神奈川県宿青木町相模屋文書
3月11日~16日 縄文時代の石器群

展覧会



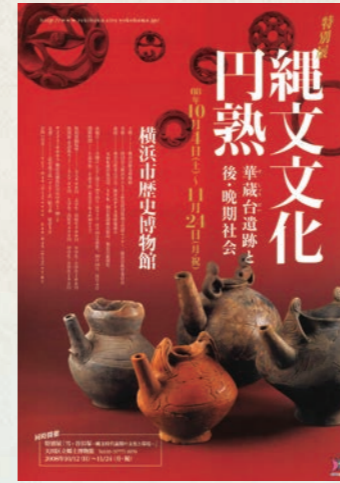
4/5~5/18



5/31~7/6



7/26~9/15



10/4~11/24



12/13~1/18



1/31~3/15



おもなできごと



体験学習「小田原ちょうちん」
マリノスケ登場(工房)



企画展「お願い! かみさま、ほとけさま」関連事業
「絵馬でお願いしてみよう」



体験学習「凧づくり」干支の凧



博物館感謝デー たねまる登場



ふるさと横浜探検「谷本川と寺家の里山を訪ねて」
講師：北川淑子氏

〈開港150周年記念企画バスツアー〉早春の伊豆半島(宿泊)



葦山反射炉



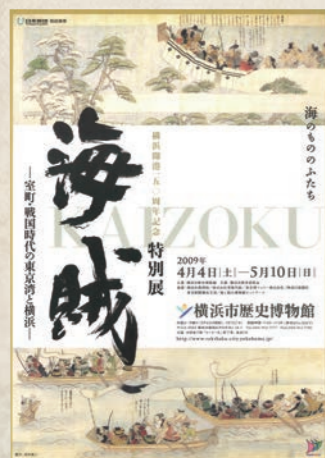
下田ペリー上陸記念碑

ミニ展示

7月8日~13日 武家出世双六 公家出世双六
8月5日~10日 天平七年相模国正税帳・天平十年駿河国正税帳共に複製
9月15日~21日 明治期 西川製オルガン

1月20日~25日 初代広重「東海道五拾三次之内」(保永堂版、小判復刻) 55点
2月10日~15日 三代広重「東海道五十三次」(小判) 56点
3月10日~15日 明治時代~昭和時代初期の絵はがき

展覧会



4/4~5/10



5/23~7/5



7/18~8/30



9/12~10/4



10/17~11/29



12/12~1/11



1/23~3/22

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

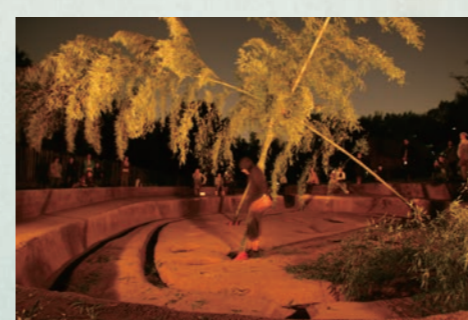
おもなできごと



活動支援ボランティアによる火起こし疑似体験
(エントランスホール)



横浜F・マリノス展



都筑アートプロジェクト
上野雄次 活花パフォーマンス
(大塚遺跡)

〈歴史劇場 鳥ロボットの名前募集!〉

彼の名前募集!!

歴史劇場の案内役でおなじみのオナカドリ、
実は15年間、名前がありませんでした。
ぜひ、カッコいい名前をつけてください。

2009.12.18(土) 17:00
2010.1.13(水) 10:00
募集先 2010年1月13日(水) 10:00

レックル命名式(2010年5月)

レックル



体験学習「小田原ちょうちん」に
マリノスケ登場



都筑アートプロジェクト
中田ナオト 作品(屋上)



都筑アートプロジェクト 会場風景
(大塚遺跡)



博物館感謝デー
時代衣装でお出迎え

ミニ展示

7月14日~20日 武蔵国橘樹郡今井村・高野家文書
8月11日~16日 YES89 横浜博覧会関連資料
9月8日~13日 「曾我物語絵巻」とその他版本類

1月9日~17日 縄文時代の骨角器類
2月13日~21日 法隆寺百万塔と関連資料
3月13日~22日 戸塚「丁子家」関係資料

展覧会



4/10～5/23



6/5～7/11



7/24～9/5



9/18～11/3



11/13～11/28



12/11～1/10



1/29～3/21



おもなできごと



企画展「大紙芝居展」関連事業「復活! 街頭紙芝居」鷲塚隆氏による実演 (エントランスホール)



夏休み 博物館たんけん隊



企画展「考古学ってなに?」関連事業 古代米ひとくち体験(体験広場)



出張ワークショップ「まがたまづくり」長蛇の列 (日産スタジアム)



企画展「大紙芝居展」のぞきからくり展示・実演 (エントランスホール)



企画展「海岸部の新田開発」フロアレクチャー

ミニ展示

7月10日～19日 小田原北条氏印判状と関係資料
8月14日～22日 豊広 東海道五十三次
9月11日～20日 近世・近代神楽関係資料

1月15日～23日 記念煙草に見る昭和の世相
2月11日～20日 縄文時代前期末の土器
3月12日～21日 稲荷前16号墳出土資料

展覧会



4/9~5/29



6/11~7/10



7/23~9/11



10/1~11/23



12/10~1/9



1/21~3/20

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月



活動支援ボランティアによる
ラストサタデープログラム 火起こし



特別展「大昔のムラを掘る」
親子向けフロアレクチャー



博物館実習



開館17周年特別講演会「東部ユーラシアと日本」
講師：鈴木靖民館長

おもなできごと

〈遺跡公園フェスタ〉



会場風景



弓矢で狩り体験



夏休み 博物館たんけん隊



チボリ兄弟舎紙芝居 (エントランスホール)

ミニ展示

7月9日~18日 鶴見区潮田村荒井家文書
8月13日~21日 お穴様(鶴見区・駒岡瓢箪山古墳)関係刷り物
2011年9月10日~19日 緑区北門古墳群出土の円筒埴輪

1月14日~22日 旧金沢甚衛コレクション -旧相模国鎌倉郡資料-
2月11日~19日 戦前グラフ雑誌が伝えた色と世相
3月10日~18日 石渡江逸の版画作品 -昭和初期、横浜の風景-

展覧会



4/7~5/27



6/9~7/8



7/28~9/23



10/13~11/25



12/8~1/14



1/26~3/24

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



大塚歳勝土遺跡公園の桜とガイドボランティア



特別展「富山重忠」関連企画 武士の時代 (体験学習室)



企画展「千歯こぎ」展示風景 SBK48



「クイズラリー」横浜歴史博もりあげ隊受付



竪穴住居Y80の破損(記録的暴風)



出張土器作り 野焼き(豊岡小学校)



木馬に装鞍(体験学習室)



街頭紙芝居(出演:岸本茂樹氏)

ミニ展示

7月7日~16日 汽車土瓶 - 旅のおともにお茶はいかが?
8月11日~19日 典籍資料にみる古代武蔵の牧と駒牽
9月8日~17日 葎根不動原遺跡出土資料

1月12日~20日 幕末・明治の書と画
2月9日~17日 鶴岡八幡宮関係文書と横浜
3月9日~17日 鍛冶ヶ谷村名主・二代小岩井六郎兵衛とその周辺

展覧会



4/6~5/26



6/8~7/7



7/27~9/23



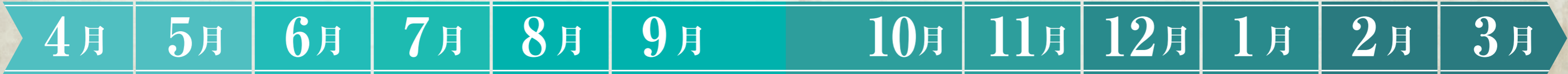
10/12~11/24



12/7~1/13



1/25~3/23



おもなできごと



体験学習室「ちょっと昔を探してみよう」



ラストサタデープログラム 火起こし



企画展「水への祈り」関連事業 散策ツアー
(横浜水道記念館)



センター北まつりへの出店参加



特別展「N.G. マンローと日本考古学」
バスツアー(軽井沢)



収蔵資料展
「絵巻でみる江戸時代」フロアレクチャー



竪穴住居に泊まろう!
(大型台風接近のため宿泊は中止)

ミニ展示

7月13日~21日 ちょっと昔を“ちいさなおもちゃで”探してみよう
8月3日~25日 吉田新田の開発
9月7日~16日 結城合戦絵巻(写本)

1月11日~19日 新収蔵浮世絵展
2月8日~16日 縄文時代草創期の遺物
3月8日~16日 竹の民具

展覧会



4/5~5/18



5/31~7/6



7/19~8/31



9/12~9/28



10/11~11/24



12/6~1/12



1/31~3/15

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



竪穴住居に泊まる



夏休み 博物館たんけん隊



特別展「佐久間象山と横浜」関連事業 書道展



開館20周年博物館感謝デー



開館20周年記念特別講演会対談
「横浜の歴史と博物館のこれから」
五味文彦理事長 & 鈴木靖民館長



企画展「大おにぎり展」親子向けフロアレクチャー



企画展「鶴見川流域の暮らし」ギャラリートーク
(エントランスホール)

ミニ展示

7月12日~21日 緑区郷土史研究会考古部会の採集資料

8月16日~24日 武蔵国豊島郡司、大伴宮足をめぐって

9月13日~21日 鎌倉街道関連資料

1月10日~18日 近年の寄贈民俗資料から -古写真・地図・映像-

2月7日~15日 佐久間象山の書簡・象山展未公開資料-

3月7日~15日 横浜の板碑(仮称)

展覧会



4/4~5/24



6/6~7/5



7/18~9/23



10/10~11/23



12/5~1/11



1/30~3/21

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



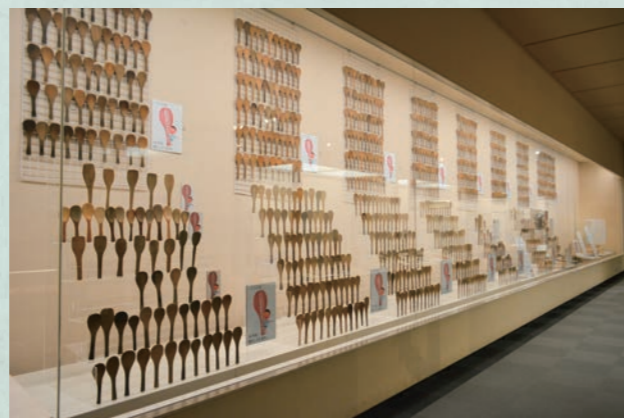
企画展「横浜発掘物語2015」関連書道展
「大昔を書いちゃった!!」展示風景



財団8施設連携展示「ヨコハマ3万年の交流」開会式
五味理事長あいさつ



「横浜のあゆみ」展 ガイド風景
(ボランティアによる常設展ガイド導入のきっかけ)



企画展「すくすく育てみんなの願い」展示風景



横浜縄文土器づくりの会作品展



博物館感謝デー
土偶マイム(白鳥兄弟)



ようこそ、3万年の横浜へ。
あらたに横浜市にお住まいになれる皆さまへ。
横浜市歴史博物館で3万年の歴史を学び、体験してみませんか?
★チラシ持参で5名様まで観覧無料(11月限り) ★横浜市歴史博物館
新規転入者向けチラシの配布開始

ミニ展示

7月11日~20日 海の日企画 横浜の貝塚出土資料
8月8日~16日 大塚遺跡の出土資料
9月12日~23日 吉田新田関係資料

1月9日~17日 汽車土瓶
2月13日~21日 造庭法・蓬萊記
3月12日~21日 本朝世紀・六波羅合戦絵巻

市民協働最先端「都筑アートプロジェクト2009」のこと

元都筑アートプロジェクト実行委員会事務局長 菊池由紀子



プロボノ活動による手作り看板

都筑アートプロジェクト2009は、アーティスト主催の都筑現代アート展(2006年以降都筑民家園で開催)に参加したアーティスト、地域密着型の民家園を盛り上げている市民ボランティア、横浜市歴史博物館とそのボランティアが一同に介して、大塚歳勝土遺跡と博物館、民家園一帯を会場に、アーティストがキュレーションする現代アート展と地元のパ

フォーミングアーツ関係者がプロデュースするフェスタを開催した。発足したての30人規模の実行委員会の持ち時間は1年足らず。10年培ってきた民家園の市民パワーと知見、中堅アーティスト主体の現代アート展の経験値、ネットワーク、持久力などの底力なしには開催は不可能だったと思う。2026年久しぶりにお会いした元民家園園長は「市民協働としては早すぎたのかもしれないが、後にも先にもない規模のものだった。」と感慨深げに話されていた。

それまで実現できなかった遺跡公園内でのマルシェやライブ、ピクニック気分が楽しめる場に多くの人々が集う一方、遺跡群の中ではどこまで作品と折り合いをつけ

られるかせめぎ合う場所もあった(堅穴式住居内に盛り土をして作品を埋め、原状回復した事例等)。会期中のワークショップ、イベント数も体験型として多く取り入れ、毎日作品保護のため広域パトロール等をボランティアにも協力いただいた。プロボノ活動による手作りの街角のサイン看板は街を明るく見せ、想定外の台風時には早朝から地域の方々が移動してくださる一幕もあった。またプロジェクトの広報(HP)、記録集は地元の若手デザイナー2名が中心となり厳しい条件にも関わらず奮闘してくださった。

アートを媒体とした街の新しい祝祭のために生まれたコミュニティが街を賑わせ、驚かせ、時に震撼とさせたことは関係者の胸のうちに深く刻まれていることだろう。横浜市のアート活動支援事業「ヨコハマアートサイト」初参加の年でもあった。その後、2013年横浜都市発展記念館「関東大震災と横浜」関連企画「だけど僕らはくじけない」阿部美香子写真展(岩手県大槌町在住作家)、「いつか帰りたいほくのふるさと〜福島第一原発20キロ圏内から来たねこ〜」ジャーナリスト大塚敦子写真展、2021年横浜市歴史博物館「布うつくしき日本の手仕事」関連企画「会津木綿のハグレでコラージュ」など大槌町、会津地方での私のフィールドワークを博物館の企画に活かしていただき、ここに深く感謝申し上げます。



作品の前で活動支援ボランティアさんと

学芸員実習の余響

現神奈川県立歴史博物館学芸員 寺西明子

私が学芸員実習で横浜市歴史博物館にお世話になった2007年は、ノースポートモールができセンター北駅前が華やかなショッピングタウンとして発展した年だった。また、2003年の地方自治法一部改正以降博物館においても指定管理の導入が検討され、公立博物館の在り方が再度注目された時期だった。横浜市歴史博物館も財団の管理委託から指定管理への移行の最中だった。実習では「採算性」と「地域・学校との繋がり」がテーマの1つに据えられ、博物館と学校を繋ぐエデュケーターの話を聞き、「学校教育との関わり」が主題の小論文を提出した。指定管理制度は経済的効率への偏重を招くのではないかという机上論に対し、いかなる状況下であろうと博物館の将来をマネジメントしていくのも学芸員の役割だということを学ぶことができた。

8日間の実習は実践の日々でもあった。土偶を作り、資料を整理し、子ども向け勾玉づくり講座を受け持った。

井上・刈田両先生の指導のもと12人の実習生で1077点の絵葉書を整理したのも達成感とともに記憶している。効率が求められる中でも資料に丁寧に向き合う楽しさを学んだ。刈田先生は覚えておいででないとと思うが、資料に触る私に「学芸員に向いているよ」と声をかけてくださった。私は舞い上がった。一般企業に就職した後再び学芸員を志し

たのはこのときの呪いによるものだ。

実習のクライマックスは遺跡公園での土器の野焼きだった。博物館実習日誌に「来館者が野焼きを見、土器で作ったスープ

を食べ、博物館を見学した後、焼きあがった土偶を取りに来ている様子を見て嬉しくなった。丸一日を博物館で過ごしてもらえるとというのはなんとすごいことか」と書いている。楽しかったのだろう。いつも迷惑ばかりかけていた担当教官がこの時に来館し「こんなに生き生きした表情を見たのは初めて」と仰ったのを覚えている。

最終日の夜、実習生みんなが遺跡公園に集まり缶ビールで乾杯した。博物館とは無縁の就職先が決まっている人も多かったが、博物館に対する愛情はきっと今も皆同じだろう。



勾玉づくりの指導実習

考古学入門展示の試行錯誤

元考古担当学芸員 高橋健

「来年春の企画展をやってもらおうから。タイトルはもう決まっている。『考古学ってなに?』」

2009年に横浜市歴史博物館に着任してすぐ、平野卓治係長から言われた。当時は春先に1日10校、1000人規模の学校団体が遺跡公園の見学に来ており、この小学6年生に向けた考古学の入門的な展示をしてほしいということだった。いろいろと考えて準備をしたが、翌年4月に展示がオープンしてみると、子どもたちが展示室を駆け抜けていく姿に驚いた。遠くから借りてきた資料も、わかりやすく書いたパネルも、一瞥もされない。かろうじて子ども達が足を止めるのは、シカ・イノシシのはく製の前だけだった。

当時は臨時開館の月曜日に企画展を開けるため春に考古学の展示を当てていたので、2013年まで春季の展示を担当した。どの展示でも子ども向けパネルは作ったが、三殿台遺跡や弥生漁撈、マンローといった内容を子ども向けにかみ砕くのはなかなか難しかった。そもそも子ども達が企画展示室に入らないことも多く、引率の先生に聞いてみると企画展を見るように指導していないことがわかった。学校側からすれば内容の面白さやわかりやすさなどは問題ではなく、毎年内容が変わるような展示を指導計画に組み込むことはできないとのことだった。

実は最初の段階でゆくゆくはパッケージ化したいという話も出ていたのだが、その時はあまりピンと来ていなかった。ネタはいくらでもあるから毎年違うことやるよ、くらいに思っていたのだが、それは学芸員の独りよがり、学校が求めているものは違ったのである。2015年からは橋口学芸員が担当して再び春の考古学入門展を行ったが、今度はパッケージ化を目指して財団の保管資料のみで構成した。2017年からは私も担当に加わってリニューアルを行い、ある程度それまでの反省を活かした展示にできたと思う。なお、2015年からのタイトル「横浜発掘物語20xx」は、1998年に安藤広道氏が担当した展示から拝借した。

このリニューアルした展示では、考古学者の思考(拾った土器片から何がわかるのか)を追体験してもらう展示や、アンケートで集めた「弥生人」への質問に答える展示、来館者に参加してもらおうハンズオン展示などのコーナーを設けた



企画展「考古学ってなに?」展示風景

が、ここではワークシートについて触れておきたい。各地の博物館で用意されているものや来館する学校の先生が作成するものを見てきたが、考古学の知識があれば展示を見なくても解けるものや、資料ではなくパネルを見て穴埋めするようなものが多かった。もちろんそのようなクイズ的なワークシートにもすぐれたものはあるが、座学で学べる内容をわざわざ博物館で行う必要はない。展示室で資料を見ることで初めて解くことができ、かつその観察が考古学的なテーマにも絡んでいるようなワークシートが望ましい。ワークシート形式にする以上は何らかの評価が欲しいが、大人数をさばくためには自己採点できる形にする必要もあった。試行錯誤の結果、展示を見ることによって解くことができるワークシートという点では、おおむね目的を達成できたと考えている。

私は2019年春に横浜市歴史博物館を離れたが、その後学習指導要領の改正やコロナ禍を経て、学校団体見学の状況も大きく変化したと聞く。これからの考古学入門展示も変わっていくと思うが、誰に何を伝える展示なのかという視点は常に忘れないでほしいと思う。



企画展関連「日本の土偶から世界のDoguへ!土偶マイム-世界遺産応援編-」にて(2021年6月)

博物館と学校との連携の取組から

元学校連携担当(エデュケーター) 慶徳正好

眼から鱗～新田開発は埋立てではなかった～

横浜の新田開発と言えば「吉田新田」。かつて学校現場で子どもたちに教えていた鍵語は埋立てだった。横浜スタジアムが何個も入る広大な入海をどのように埋め立てたのかが学習問題だった。財団に勤めはじめて専門学芸員と共に訪問授業に出かけた時、正しくは《埋立て→干拓》と教えられた。史料(新田開発絵図の前と後)を丁寧に見ればそれは明白だった。何故、取入口に水門があり中川へと流し込み、水路を網目状に巡らしたのか。何故、海側に沼地を残し二つの水門を作ったのか。何故、今の中村川と大岡川に沿って堤の盛土(博物館の模型資料)を必要としたのか。それは水田を作る《干拓》事業だったから。上流から清水を流し込み塩分を含む海水を沼地に一度貯めて、潮の干満によって



専門学芸員とともに訪問授業へ

水門開閉で調節するという先人の知恵に気付かされた。以後《干拓》の意味を、如何に分かり易く子どもたちに(先生も含め)伝えていくかが、私たち学校連携担当の課題となった。

光を浴びた昔の道具～学校に眠るくらしの道具～

文化庁補助金によるデビュー支援事業がスタート。学校に眠る埃だらけの道具に光があたった。市内小学校へ全校調査の後、複数の学校からオファーを受け道具の一覧表づくり、道具一点一点の再整備と展示、解説づくり、そして学校資料館オープン。専門学芸員、ボランティア員、地域協力者の手作り資料館での授業が開始された。連携担当のある日の訪問授業から。炭火アイロンを手「あれ、電気コードがないよ」、洗濯板の造り(表裏の波形の違い)から「石鹼ゴシゴシと水洗い体験、板を返すのか」、囲炉裏を囲んで「お湯が沸いた、お魚も焼ける、手もあったか」など。子どもたちは道具をつぶさに見て触れて、昔の人のくらしぶりに迫ることができた。



囲炉裏端での訪問授業(戸部小学校)

子どもたちは道具をつぶさに見て触れて、昔の人のくらしぶりに迫ることができた。

一担当者が振り返る2期の普及事業

～両輪から融合・連携へ～

近世担当学芸員 小林紀子

2003年の着任当時、横浜市歴史博物館の学芸員の業務は、収集保存・調査研究・展示をおもに行う「学芸係」と、展示以外の普及事業を行う「普及振興係」に分かれていた。私は「普及振興係」に配属され、研修で「当館では、展示と普及事業は博物館を支える“両輪”として並び立つものだ」と教えられた。実際に業務が始まると、春季連続講座、古文書講座、土器づくりや年40回以上の「体験学習」(モノづくりWS)、年5~6回の「ふるさと横浜探検」(史跡めぐり)、堅穴住居への宿泊体験といったイベントの企画実施に加え、季節に応じた体験学習室の運用、実習対応等々、まさに“両輪”



感謝デーあじろの編み 当時は学芸員が指導を担当

の一として、かなり活発に普及事業を展開していたと思う。

2008年の指定管理者制度導入ののち、学芸・普及振興両係が統合された。元普及振興係の学芸員が収集保存・調査研究・展示も行うようになったため、従来の

ボリュームで普及事業を継続することが難しくなり、回数を減らすなどの対応を要することとなった。しかしその一方で、2009年の開港150周年や2011年の公益財団法人化の中、より親しみやすく開かれた博物館として、ふさわしい普及事業を新たに模索していくことにもなった。

博物館の裏側や夜の顔を体験してもらう「バックヤードツアー」、「ナイトミュージアム」は、この時期に新規に企画

実施した。単独事業ではなく、企画展の関連事業としての講座・講演会や史跡めぐりツアーが増加したのもこの時期だった。さらに、他施設や他団体との連携事業にも積極的に取り組むようになり、都筑アートプロジェクト(※p52菊池由紀子氏コメント参照)の開催や、横浜F・マリノスとの連携事業を実施した。この事業の一環で、当館の「小田原提灯づくり」で参加者が作成した提灯が日産スタジアムに掲げられた。数々の小田原提灯が夜空を彩る光景は印象深く、今でも時々思い出す。

それまで“両輪”=ある意味独立していた普及事業が、組織や社会の変化を経て、展示や調査研究と融合したり、多様な主体と連携したりするものへと形を変えていった10年だった。これからも普及事業は社会の変化に応じて形を変えていくのだろうが、「博物館」としての根幹を忘れず、かつ独りよがりにならない事業の模索がこれからも続いていくのだろう。



小田原ちようちん(日産スタジアム)